

「年齢別による視力回復の効果」

2001 年(社)全日本鍼灸学会大阪大会発表

《はじめに》

我々は前回の全日本鍼灸神戸大会において、「同経遠位穴による視力回復の効果」と題して報告した。その中で、400 人・780 眼の視力回復について分析した。

治療前と治療後の視力変化を t 検定をして、統計処理すると有意水準 0.5% で、治療開始時視力 0.22 から治療終了時視力 0.44 に、平均で 0.22 の視力向上を認めた。そこで、今回はそれを年齢別に比較検討してみることにした。

《対象》

対象は 1991 年から 2000 年 4 月までの 9 年間で、視力回復を目的に当院に治療にきて、10 回の治療をしたすべての 400 人(男 174 名、女 226 名。4 歳から 76 歳、平均年齢は 19.7 歳)。対象眼は 0.01 から 0.9 の視力範囲で正常視力以下とした。そのため対象眼は 780 眼とした。

新和精工製電工投影式視力検査機 SK-8A を使用し、治療前後に視力を測定した。屈折度測定はしていないので、近視の程度は不明です。

なお近視の程度は、-3D 以下を軽度近視(視力 0.1 前後)、-3D から-6D を中等度近視(視力 0.04 から 0.1 前後)、-6D 以上を高度近視(視力 0.04 未満)と分類されている。

それに照らし合わせると今回の対象者は、軽度近視(572 眼・73%)、中等度近視(119 眼・15%)、高度近視(89 眼・12%)の割合であった。

《方法》

治療は目の周囲の圧痛点を捜し、その同じ経絡上の反応点に刺鍼。さらに全体療法も重要なので、腹部と背部の圧痛も調べ、治療点に刺鍼し、圧痛を取り除く。鍼はセイリン社製 40 ミリ・16 号鍼(1 寸 3 分-1 番)を使用。横刺で浅刺。20 分間の置鍼。

また補助的に耳穴圧迫法(目 1、目 2、眼点、神門に王不留行の種を貼る)、温灸治療(腹部の反応点に 15 分)をし、さらに目の体操を 1 日 3 回するように指導。一週間に 2 回から 4 回の間隔

で治療し、10回の治療を1クールとする。視力は必ず治療前後に測定し経過を観察した。

《結果》

	初期視力		治療後	
小学生以下	0.26	→	0.51	0.25の向上
中高生	0.19	→	0.42	0.23の向上
成人	0.16	→	0.31	0.15の向上
老人	0.36	→	0.61	0.25の向上

《結語》

視力低下を訴える患者、400名に対し、鍼灸治療をおこなった。

どの世代においても、有意水準 0.5%で視力の回復が認められたが、年齢による差は観察できなかった。

《考察》

前回の報告では、治療前の視力が高いほど、回復率がよくなったことが認められた。以上のことから、視力回復は年齢が高いからとあきらめる事なく、あまり視力低下のすすまない初期のうちに、治療をすることが、治療効果を高めるといえる。

《備考》

◎目の体操法の紹介

吉川正子、須藤隆昭 壮快6月号 マキノ出版 2001

(一部抜粋。この論文の無断転載を禁じます)